

銚子ジオパーク市民の会 ニュース



屏風ヶ浦(銚子市)

第133号

2025年04月24日発行

発行責任 工藤 忠男

銚子ジオパーク市民の会

URL : <https://choshigeopark.com>



再認定審査結果報告 銚子ジオパーク推進協議会

専門員 岩本直哉

日本ジオパークでは、日本ジオパーク委員会(JGOC)が地質遺産の保全、活用の仕組みと取り組み、前回審査時からのジオパーク活動の進展などについて4年に一度、再認定審査を行っています。銚子ジオパークの再認定審査は昨年でした。

JGOCから橋詰潤氏(新潟県立歴史博物館専門研究員)、委員会から委嘱された福村成哉氏(南紀熊野ジオパークセンター主査研究員)の2名が現地調査員として10月27日〜30日にかけて銚子ジオパークを訪れ、サイトの見学や関係者とのヒアリングなどを行いました。

そのレポートをもとに第53回日本ジオパーク委員会(2025年1月27日実施)で審議された結果、銚子ジオパークは見事、再認定となりま

した！審査結果のコメントは以下の通りです。

「市民の会によるポトムアップ活動や、文化財とジオパークを一体的に扱った活動は本地域の優れた特色である。銚子ジオパークミュージアムの大規模改修が進行中であり、その他の拠点施設の展示改修も行われた。持続的な運営体制と担い手の確保に課題があるものの、幅広い年代を対象とした教育活動が展開され、地元大学との連携では博物館実習課程からの新たなガイド誕生も期待される。(原文のまま)」

市民の会が母体の質的に高いガイド活動やサイトの保全活動は評価されましたが、持続的に継続させていくためにも新たな担い手の確保が必要であることが課題の一つとして挙げられています。

今後、銚子ジオパークでは再認定審査で指摘された点などを踏まえたアクションプランを作成していきます

ので、皆様のご意見を頂ければ幸いです。



いい銚子C



会長とのヒアリング



現地調査の様子

銚子ジオパークの森の 保全活動について

専門員 上田脩郎

君ヶ浜の国有林は、2019年に林野庁と銚子ジオパーク推進協議会で「多様な活動の森に関する協定」を結び、「銚子ジオパークの森」という名前でさまざまな活動を行えるようになった場所です。

この森の最大の魅力は、通常は数百年かかるような植生の移り変わりをみる事ができる点です。海岸から内陸側へと歩いていくと、植林されたクロマツなどの低木から、タブノキなどの照葉樹林に植生が移り変わっていく様子を観察できます。

しかし、時代の移り変わりによって松林は放置され美しい松林の景観が失われつつありました。銚子ジオパークでは、銚子ジオパーク市民の会をはじめとする市民の

方々と共に、森の魅力を維持するため、クロマツ林に侵入してきた低木の伐採や下草刈りなどの保全活動を行っています。

こうして守られた森はサイトとして活用され、特に2024年には、日本ジオパークの再認定現地調査員を案内し、森の植物を活用する体験を取り入れた新たなガイドは好評でした。

今後も、定期的に美化活動を行って景観を保全し、自然環境を学べるフィールドとして活用していくため、市民のみなさまには引き続きご協力頂きたいと思っております。

2/18: 保全作業に参加された方々

